



丸勝商店 + 中央商店街ビル群

本町中央商店街の近代化事業計画は、本町5丁目を中心として、4丁目の一部と6丁目の一部の本町通りの地域4.24ha内を中高層商店街に近代化するものであった。

この事業で強いリーダーシップと指導力を発揮したのが当時桐生商店連盟副理事長であった川田磯次郎氏である。

桐生市のメインストリートである本町中央商店街は、戦災を受けなかったために市街の近代化が遅れ、歩・車道の区別もなく、幅員は12mの狭さで買い物客は車の危険にさらされていた。また大型店の進出に対抗するため、商店街近代化計画としては、まず商店街を3階建て以上の中高層化する、片側3.5mの歩道を両側に設け、これを含めて道路幅員を18mにする、歩道にはアーケードをつけて、1階の商店間の仕切りを無くした横のデパート化を図るというものであった。

当初は賛同者が得られず、川田氏は昭和30年頃、自分の店である丸勝商店単独で中高層化に踏み切り、店舗を拡張、近代化して成功を収めた。その後の地道な活動により、昭和38年に本町5丁目商店街50余店が加盟する桐生市本町商店街建設協同組合が設立され、同44年に事業が完成し、本町中央商店街は画期的な変貌を遂げたのであった。その後、末広町、本町6丁目・3丁目・4丁目と次々に近代化が進んでいった。

国の高度化事業資金を導入したものとしては全国最初で、商店街づくりの模範となったほか、市内の各商店街近代化事業のお手本となった風景である。



所在地 桐生市本町5-351
代表者 西井 憲一郎